# 島根県立宍道高等学校における外国人生徒等の教育

## ①　生徒の実態

日本語能力、学力、把握の方法

・出雲市内に日本語支援拠点校になっている中学校が3校ある。事前に、3校を訪問し、授業の様子を参観した上で、中学校の関係者と情報交換等を行い、実態把握につとめている。

・日本語支援の対象となっているのは、1年次生4名、2年次生1名の計5名。

・いずれもブラジルにルーツをもつ生徒。滞日履歴は、2年から8年。

・入学者選抜において、外国につながりのある生徒の特別枠はない。

・入試は、日本人と同じ問題。ルビ振り措置。申請があれば、一部教科試験を免除し、作文検査を実施。

・生活、学習上の困難（心理面、家庭環境、地域との関わり等を含む）

・生徒によって差はあるが、日常生活やアルバイト等を通して、「聞く力」「話す力」はある程度ついている。

・学習言語が習得されていない生徒がほとんどであるため、授業には日本語支援員が入り、母語・やさしい日本語でのサポートを行う必要がある。通常クラスでの授業を受けることには困難が伴う。

・日本と本国を行ったり来たりしていた生徒は、日本語でもポルトガル語でも学習概念や学習言語が習得されておらず、高校での学びも難しくなっている。

・小学校・中学校時代に不登校傾向にあった生徒についても同様のことが言える。

・翻訳アプリを活用している保護者が多い。行政機関には通訳がいることが多いため、困難な場面は少ない。

・保護者の職場の通訳等のサポートを活用できる環境にある保護者が多い。

・保護者は長時間の工場勤務で疲れており、家事のほとんどを子どもたちが担っている。日本語がままならない保護者の活躍の場を作っていくことも大切だと感じる。（ブラジル料理教室や学園祭等でのブラジル料理出店等）

進路（キャリア認識、就業に対する意識）

・多くの生徒が、自分の意志で来日したわけではなく、親の都合で来日している。自分たちの進路については、「いつまで日本にいられるのか分からない状態なので、進路を考えろといわれても無理。」というのが本音であろう。

・「総合的な探究の時間」に CCP（キャリア・カウンセリング・プログラム）を実施しているが、過去の経験から、「進路指導等は自分に関係ない」「総合的な探究の時間は欠席する」と話す生徒が多い。

・「日本の高校を卒業して自分の進路選択の幅を広げたい」という思いで入学してくる生徒については、進路意識が非常に高い。

・今後も日本にずっと住み続けることが家族の中で決まっている生徒は、比較的見通しを持った進路意識があり、職場体験や看護体験等にも積極的に参加している。

・地元にあるブラジル人を雇用している企業は18歳になれば、中卒・高卒に関係なく採用されるので、高校卒業資格にこだわらない生徒は、卒業へのモチベーションが低い。

・「日本語ができない外国人」という意識から「ポルトガル語と日本語の両方ができる人」という自己認識に変えていけるように、周囲の大人がサポートする必要がある。

・生徒が、さまざまな職業に就いている人の話を聞き視野を広げることを目的としてキャリアガイダンスを実施。今年初めて、ブラジル出身で、現在日本で活躍されている方をお招きし、話を聞くことができた。

## ② 日本語指導・教科学習支援

教育課程上の位置づけ、校内の受入体制

・学校設定科目「日本語理解Ⅰ」(4単位)「日本語理解Ⅱ」(2単位)を設置。今後、「日本語理解Ⅲ」「日本語理解Ⅳ」の設置も検討。

・今年度は「日本語理解Ⅰ」(4単位)のみの開講。週4コマ。90分授業(1コマ45分×2コマ)のある日が週2日。

・「日本語理解Ⅰⓐ」は、2年次生徒1名。日本語担当者(国語科)、非常勤講師、家庭科教員で担当。

・「日本語理解Ⅰⓑ」は、1年次生徒4名。日本語担当者(国語科)、非常勤講師、日本語支援員で担当。

・1年次生の授業には、基本的に、日本語支援員が一緒に入り、授業理解のためのサポートを行う。

指導、支援内容

・「日本語理解Ⅰ」の指導目標

① 自分の考えを日本語で伝えようとする力の育成。
② 宍道高校での各教科の授業に主体的に参加する力の育成。

・外国につながりのある生徒の時間割(1年次生)

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1・2限目 | 社会と情報 | **※数学入門** | 総合的な探究の時間／LHR | 英語入門 コミュニケーション英語 | **※国語入門** |
| 3・4限目 | **※日本語理解Ⅰ** | 体育 | 芸術 | **※日本語理解Ⅰ** | **※家庭総合（前半）** |

※印の科目は、外国につながりのある生徒のみのクラスでの授業。

・授業内容

「日本語理解Ⅰⓐ」:(月)家庭科の教員と一緒に、日本の料理や文化に関する授業を展開。2年次1名。
(木)他教科の理解につながる日本語の授業を展開。
やさしい日本語 NEWS、「教科につながる学習語彙」、小学生新聞等
「やさしい敬語トレーニング」。敬語や接客に必要な表現方法。
他教科の学習とリンクさせたトピック作文、絵作文、意見文、日記等の「書く」指導。
他教科の学習とリンクさせたトピックトーク。

「日本語理解Ⅰⓑ」:(月)(木)他教科の理解につながる日本語の授業を展開。1年次4名。
やさしい日本語 NEWS、「教科につながる学習語彙」、小学生新聞等
漢字は、個人差があるため個別指導。「にほんごチャレンジかんじ」
他教科の学習とリンクさせたトピック作文、絵作文、意見文、日記等の「書く」指導。
他教科の学習とリンクさせたトピックトーク。

## ③ 進路支援

進学指導、就職支援

・今年度から事業をスタートさせたので、具体的な進学指導・就職支援はこれから。

・日本での進学（大学、専門学校等）を目指す生徒、海外での進学（大学、専門学校等）を目指す生徒への支援をどこまでできるのか、という点が今後の課題。

・特に、看護系や介護系、保育系の仕事を希望する生徒も多いが、外国籍の生徒についての進学や資格取得についての情報があまりないため、今後、関係機関と連携しながらサポート体制を整える必要がある。

・地元での就職について、今後就職先の開拓が必要になってくると思われる。

キャリア教育

・「総合的な探究の時間」の中で、CCP（キャリア・カウンセリング・プログラム）という進路学習を行っている。日本人生徒のために作られているプログラムのため、外国につながりのある生徒に合わない内容の場合は、適宜、アレンジを加えたり、別メニューを準備したりしながら対応している。

・キャリアガイダンスでは、日本で活躍されているブラジルの方の体験談を聞くことで、自分自身の進路を見つめ直す良い機会となったようだ。

## ④ 多文化共生に関わる教育や心的サポート、生活相談（カウンセラー、ソーシャルワーカー、養護教諭）

多文化共生に関わる教育

・教職員向けの研修を実施。異文化体験ゲーム「バーンガ」や外国につながりのある生徒の体験談、ポルトガル語授業体験等を通し、外国につながりのある生徒を理解する姿勢を学んだ。

・来年度以降は、生徒対象の異文化体験講座を実施予定。

・ポルトガル語に関心を持っている生徒も多いことから、放課後の時間等を使って、外国につながりのある生徒からポルトガル語を勉強する場を設けられないか検討中。

・学園祭等でブラジル紹介やブラジル料理店を保護者や日本人生徒を巻き込みながら実施できないか検討中。

心的サポート、生活相談等

・週に3日、ポルトガル語のできる日本語支援員（日本人）を配置。母語で生徒の悩みを聞く等対応してもらっている。

・彼らの進路相談や生活相談にも対応してもらえるようなネイティブの人材がいればなお良いと考えている。

・ポルトガル語の話せる心理カウンセラー等も場合によっては必要か。

・生活相談については、市役所の担当課等とも連携の必要性を感じている。

## ⑤ 地域の団体、大学、企業等との連携による取り組み

※以下の機関が、宍道高校の外国人受入のための運営協議会のサポート機関となっている。

・しまね国際センター ： 研修会等への講師派遣。日本語指導への助言。通訳の派遣。三者同時通話システム。

・NPO法人エスペランサ ： ブラジル人材の紹介。生活サポート。

・島根大学 ： 研修会での講義。日本語指導への助言。

・島根県環境生活部文化国際課 ： 国際交流員の派遣。校内文書の翻訳。

・出雲市教育委員会 ： 受入生徒の情報提供。中学校との連携サポート。

・島根県教育委員会 ： 外国につながりのある生徒受入への指導・助言。

## ⑥ 今後の課題

外国につながりのある生徒に対する各教科指導のあり方

・各教科の授業内容を、どこまで、特別な内容にするのか？して良いのか？

・授業内容、テスト問題、評価が連動しているので難しい問題。

・先進校のなかには、「国語」の授業で「日本語指導」を行っている学校もあると聞いているが。

・教科担当教員への支援

日本人生徒向けの教材とは別に、パワーポイント資料、ワークシート、小テスト、定期試験を準備することの負担。

校内の協力体制、校内外の人的なサポート体制を整えることが必要。

外国につながりのある生徒の教科評価のあり方

・日本人生徒と同じ科目を選択しながら、別評価をすることが良いのか？

・公平性の観点から考えるとどうなのか？

・先進校での評価はどうなっているのか？

外国につながりのある生徒のクラス編成

・本校では今のところ、1年次のホームルームクラスは、外国につながりのある生徒のみとし、居場所づくりを行う。

・2年次からは、外国につながりのある生徒のみのホームルームクラスは設けず、日本人と外国につながりのある生徒が混在するホームルームクラスを検討中。

・授業のクラスについては、教科の特性から、日本人と一緒のクラス、外国につながりのある生徒のみのクラスがある。どの教科を単独編成とするのか？いつまで単独クラスにするのか？教育的な効果、教員の負担のことも考慮しつつ、今後検討が必要。

外国につながりのある生徒への進路支援、進路保障

・日本での就職、進学を希望する生徒への支援をどのように行うか？

・海外での就職、進学を希望する生徒への支援をどのように行うか？

・日本の高校を卒業することにこだわりをもっておらず、日本語だけ勉強したいという生徒の存在。

外国につながりのある生徒と日本人生徒との交流の場づくり

・授業以外で、日本の生徒と外国につながりのある生徒が協働するような仕組み・しかけづくりが必要。

・地域や保護者も巻き込んだ形での交流の場づくり。

外国につながりのある生徒の入学者選抜のあり方

・現在は、外国につながりのある生徒の特別枠は設けていない。

・あくまでも一般選抜の中での特別措置として、ルビ振りや教科減、作文検査等を実施している。

学校設定科目「日本語理解」のカリキュラムデザイン

・現在、「日本語理解Ⅰ」「日本語理解Ⅱ」までの設置。今後、「日本語理解Ⅲ」「日本語理解Ⅳ」等を設置するか？

・どのような方針で、誰が主体となって日本語の授業をすすめていくのか？

・非常勤講師、日本語支援員の方々にどのように関わってもらうのか？

中学既卒の生徒・ダイレクト入試の生徒への対応

・日本の中学校に通ったことがなく、本校を受験してくる生徒への対応。